

入学試験関係

【本科】

○推薦による選抜

- ・推薦入学願書受付 1月6日(火)～8日(木)
- ・面接 1月16日(金)
- ・合格内定通知発送 1月22日(木)

○学力検査による選抜

- ・願書受付 2月6日(金)～10日(火)
- ・学力検査 2月22日(日)
- ・合格発表 2月27日(金)

【専攻科】

○社会人推薦

- ・願書受付 12月1日(月)～5日(金)
- ・面接 12月12日(金)
- ・合格発表 12月18日(木)

行事予定 (10月から3月)

10月

- 1日(水) 後期授業開始
- 10日(金) 学生臨時休講日(プロコン準備)
- 10日(金)～14日(火) 東北地区高専ラグビー大会
- 11日(土)～12日(日) プログラミングコンテスト本選
- 19日(日) ロボットコンテスト東北地区大会
- 25日(土) 秋季学級懇談会
寮保護者会
- 29日(水) 防災訓練

11月

- 1日(土) 高専祭 準備・前夜祭
- 2日(日) 高専祭 本祭
- 5日(水) 月曜振替授業
- 13日(木)～14日(金) 学年・学科行事日
- 19日(水) 寮防災訓練
- 23日(日) ロボットコンテスト全国大会
- 25日(火) 後期中間試験開始
(12月8日月まで)

1月

- 8日(木) 授業開始
- 14日(水) 学習到達度試験
(3年生対象但し3コマ除く。他学年は臨時休講日)
- 15日(木) 水曜授業振替
- 16日(金) 学生臨時休講日
- 23日(金) 専攻科特別研究発表会(1年)
- 28日(水) 専攻科特別研究発表会(2年)
- 30日(金) 専攻科特別研究公開発表会(2年)

12月

- 13日(土)～14日(日) デザインコンペティション
- 19日(金) 専攻科特別セミナー発表会
- 24日(水) 冬季休業開始
(1月7日(水)まで)

2月

- 4日(水) 学生総会
- 9日(月)～16日(月) 後期期末試験
- 23日(月) 学生臨時休講日
- 25日(水)～27日(金) 卒研発表会

3月

- 2日(月) 終業式
- 18日(水) 卒業証書授与式
修了証書授与式

編集後記

学校便りの第85号を発行いたしました。今回の誌面では、入学式以後にあった学校の行事と学生の活動をできるだけ写真を多くして掲載いたしました。様々な行事が行われていることと、学生が様々な分野で活躍しているおかげで、充実した誌面ができたのではないかと考えております。学校便りは年2回発行しておりますが、第85号の校正を行っている隣では高専祭が催されております。その後は学年行事日も控えており、次号の誌面も賑やかなものになりそうです。今後も福島高専の「今」を少しでもお伝えできるように、よりよい誌面を目指して努力していきたいと考えています。

広報委員長 篠木 政利

学校だより

第85号 2008.11 福島工業高等専門学校



目次 Contents

校長 入学式辞	2～3
三主事あいさつ	4～5
各科の近況	6～8
認証評価	9
インターンシップ報告	10～16
タマサート大学との学生交流	17
20年度1日体験入学を終えて	18～19

第19回全国高専プログラミングコンテスト	20
学生の活躍	21～27
高専ロボットコンテスト2008	28
東北地区大会	28
とびくす	29
新任教職員紹介	30～31

第47回 入学式

ようこそ 福島高専へ

創造性・実践力への第一歩

人間力、創造力、
コミュニケーション能力を
身につけよう



式 辞

新入生208名、留学生6名を含む編入学生9名、専攻科生20名の皆様の福島高専への入学、誠におめでとうございます。また、ご列席のご家族の皆様、難しい試験を突破してのご子息のご入学、おめでとうございます。

例年に比べ寒く感じた冬も終わり、穏やかな春の季節になりました。桜が満開の中で、このように多数の若い新入生諸君を福島高専に迎えることができ、教職員、在校生一同、大変喜ばしく思っているところでございます。

本日は、第47回本科入学式、4年次編入学式ならびに本科5年を修了した後の2年の課程である専攻科の第5回入学式を同時に挙行させていただいております。また、本日は第一体育館が耐震工事中のため、狭隘な第二体育館で入学式を挙行了することになり、ご参列の皆様には大変なご不便をおかけしておりますが、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

皆様が入学される福島高専は今から46年前の昭和37年に、日本で最初に、他の11の高専と共に創立された高専の一つです。平成16年には、国立の55の高専が独立行政法人「国立高等専門学校機構」として統合され、福島高専もその中の一組織として再編されています。この46年間に、6千人を超える創造性と実践力のある技術者を産業界に送り出してきました。これらの卒業生の実力は、テレビ等の報道でも取り上げられておりますように、社会で大変評価されています。今後も、本校の、個性化、活性化、教育・研究の高度化を進め、創造性と実践力を持つ卒業生を社会に送り出していくつもりです。

福島高専では、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業時に身につけるべき学力をきめ細

かに決めています。教育理念の第1は広く豊かな教養と人間力の育成、第2はしっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成、第3は国際性とコミュニケーション能力の育成です。昨年、食の安全が問題になりました。賞味期限の改ざん、中国餃子からの農薬の検出などです。皆様の大多数は、本校を卒業後、技術者やビジネスマンになります。技術者やビジネスマンは、例えば、このような農薬の混入や、賞味期限の設定のような製品の安全・安心に直接関与することが多くなります。皆さんは、社会に出るまでに、身につけた能力や技術力を使って、さまざまな状況で、自分は、何をなすべきか、何をしたいのかを判断できるだけの教養と人間力を身につける必要があります。これが教育理念の第1です。資源のない日本の財産は、優秀な人材と優れた技術力です。日本が、世界の先進国を維持していくためには、優れた人材と優れた技術によって、新製品やシステムを創造していかねばなりません。福島高専では、専門基礎力と実践的実験・実習を重視して、皆さんにそのような創造性を備えてもらいたいと思っています。これが教育理念の第2です。また、グローバル化した社会では、周りの人々や世界中の技術者とコミュニケーションをとらねばなりません。そのために、十分な語学教育や国際文化比較教育等によって、教育理念の第3番目の国際性とコミュニケーション能力を勉強してもらうカリキュラムになっています。

このような教育理念の下で、皆様が卒業するまでに身につけるべき具体的な能力として、本校では、次の6項目を掲げています。第1は豊かな教養と周囲に配慮できる人間性、第2は専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力、第3は自ら工夫し、広い視野から新しい発想ができる能力、第4は自己を啓発し、課題を分析して解決する能力、第5はモノ



つくりやデザインの実践力、そして第6は基礎的なコミュニケーション能力と情報技術を活用したプレゼンテーション能力です。

これらの能力は、本校のカリキュラムで5年間の勉学を収めれば必ず身に付くことが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査によって、保証されています。これからの、5年間の勉学において、皆様は次のことに注意して勉強して下さい。まず、第1に、学校で定められた規則・規律を守り、自律的に皆が学校で快適に生活できるように努力して下さい。第2に、先生の講義をただ聴くだけではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを質問する姿勢を保って下さい。高専では、これまでの中学校とは違い、何にでも疑問を持ち、自ら能動的に学ぶことが、諸君に求められます。また、それは自分が成長していく原動力にもなります。15歳から20歳頃に学んだことは一生忘れずに頭に残りますし、不思議なほど何でも次々に頭に入る時期でもあります。多いに疑問を持ち、その疑問を解決して体でおぼえて下さい。第3に、課外活動を楽しんで下さい。文化部やスポーツ部に所属し、集団での活動能力を身につけて下さい。第4に、何でもしっかりと語り合える友人を作して下さい。この時期にできた友人やクラスメートは一生の友人になります。クラブ活動や友人との語らいが皆様の人間力にさらに磨きをかけることにつながります。

皆様が高専の5年間の課程を終えて卒業しますと、その先には、さまざまな進路が開けています。就職して社会で実力を発揮することもできますし、本校の専攻科に進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることもできます。また、大学の2年生または3年生への編入学への道、豊橋と長岡の技術科学大学へ進学して修士または博士までの工学の一貫教育をうける道もあります。入学生諸君には、さまざまな道が開



けていますので、自分が進む先を今から見据えながら、夢と希望を持って勉学に励んで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科5年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科2年の課程を終え、学位試験に合格すると、大学評価・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の称号を得ることが可能です。この3月に卒業した専攻科第3期生20名は、全員、学士の称号を授与されました。専攻科にも、本科と同様に修了時までに身につけるべき6項目の能力を決めていますが、特に、本科と違う点は、地球的視野で考えられる能力、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力、新しい産業技術を創造できる能力を持つことです。このような能力を身につけるためには、専門知識ばかりでなく、幅広く一般教養も身につけねばなりません。また、数学や物理、専門基礎科目を、なぜそうなるのかということまで含めて深く理解し、これらの知識を場合にに応じて自分の中で融合させ、応用することができて、初めて、発揮できる能力です。専攻科生として恥ずかしくない能力を身につけられるよう、日頃の勉学に励んで下さい。また、近年の技術の進歩によって、世界で競争できる技術者は、通常、少なくとも修士の学位を持っているのが普通です。大学院への進学も含めて、将来の自分の姿と進路を今から考えてもらえればと思います。

最後に、新入学生諸君全員には、本日から卒業するまでの間に、本校の理念である人間力、創造力、コミュニケーション能力を身につけられるよう、また、日々健康に気を付けながら、若者らしく元気に、自律的に努力し、大きく成長して、自信を持って社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞と致します。

三主事あいさつ



実体験を積み、深く考えよう。

教務主事 根 岸 嘉 和

昨今、創造教育、エンジニアリングデザイン教育、PBL (Project Based Learning) といったキーワードが高専だけでなく大学でも飛び交っています。

これらは、高等教育機関といえども、研究重点型ではもはや成り立たないのは勿論のこと、概念や理論の教育だけでは教育目標を十分に達成することはできず、具体的な事象を体験する中で、あらゆる手段を活用して課題を探索し解決して、創造的な成果を残せる能力を育成していく必要に迫られていることを示すものと言えます。

その背景には、レンジで「チン」すればすぐ食べられ、携帯から瞬時にして多種多様な情報が得られる現代に育つ若者の、実体験の不足があるものと思われます。

学生諸君は、是非、試験で点数を取るための勉強でなく、自らの学習によって得た知識・技術を課題解決に活用できるような生きた能力を身につけることや、そのためのスキルを獲得することを目指してもらいたいと考えます。

まず、実物に触れ、現象を経験する実体験を多く積むこと、そして深く考えることだと思います。

専攻科の近況と展望

専攻科長 根 岸 嘉 和

専攻科2年生は「学士」申請に向けて、学位授与機構への学修成果のレポート提出を終え、小論文試験を待つ段階ですが、今年度も全員合格の伝統を受け継いでくれることを願っています。

専攻科入試も推薦選抜、学力選抜と終了し、多くの優秀な合格者を出している状況です。今後もこうした傾向をより発展させられるよう、全校を挙げて取り組んでいく必要があると思います。

10月初め函館での全国高専専攻科実務者会議では、学位授与権の獲得、エンジニアリングデザイン教育、地域連携教育、大学との差別化等に関して、今後の専攻科教育の充実に向けた熱のこもった協議が行われ、改めて高専教員の教育熱心さを実感しました。なお、東北地区の専攻科実務者連絡会は本校主管で、11月20日に開催されます。

さて、去る9月1日の朝日新聞に「高専専攻科に熱視線」という記事が掲載されました。高専の専攻科および本科の高い実力の評価と明るい展望が熱く語られており、大いに勇気付けられました。

こうした状況の中、専攻科の益々の発展に向け、各位のご理解とご協力をお願い致します。



水泳部全国高専大会優勝に想う

学生主事 根 本 信 行

今年度の全国高専体育大会では、卓球とテニスの女子ダブルスで優勝するなど、女子の活躍が目立ちました。また、水泳部が学校対抗で1位となりました。水泳部は複数の本校教員が指導にあたり、例年好成績を収めてきましたが、今回の優勝は、12年前に水泳部の顧問であり、学生指導に全力を尽くし惜しくも早逝された故菅原卓夫先生からの委嘱を受けた金澤コーチのお陰でもあります。卓球部も40年を越える長期間にわたり、親子2代の橋本コーチの指導を受けています。他のクラブも学外の多くの人々に援助していただいています。さらに、多くの卒業生や保護者の皆様のお陰で、本校のクラブ活動が成り立っていることを改めて見直し、学生・教職員共に感謝の心を持ちたいと思います。

本校のインターネットの環境も、卒業生や在校生有志の献身的な活動と、隣の茨城高専の学生の協力を得て整ってきました。本校学生の活動のすべては、周りの方々のお陰であることを学生・教職員が認識し、それぞれが努力を積み上げて、学生と本校が大きく飛躍することを期待しています。



生活環境の改善に向けて

寮務主事 高 野 克 宏

今年度、寮務主事を務めております一般教科の高野です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成20年10月現在、磐陽寮には190名（内女子45名）が暮らしています。この中には男子8名・女子6名、合計14名の留学生が含まれます。東北地区の高専の中で最も多い留学生を受け入れており、国際色豊かな学寮と言えるでしょう。

今年度の最も大きな出来事は、若葉寮（女子寮）を対象としたアスベスト除去工事の実施です。昨年度末、天井の吹き付け材からアスベストが検出されたため、夏季休業を利用して除去工事を実施しました。工事にあたっては若葉寮を全面的に封鎖する必要があり、居室内の荷物の撤去や合宿の変更等で寮生や保護者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしました。工事は予定通り終了し、9月24日の開寮日から通常どおりの生活に戻っています。

高専の施設の老朽化が問題視され、新聞等でも取り上げられました。磐陽寮も例外ではありません。今後は、生活環境の改善を目指し、優先順位に配慮しながら、施設の更新・改修に向けて予算要求等の努力を続けていきたいと考えております。

各科の近況 [本科]



一般教科長
西山 公紀

今年度新たに、布施雅彦先生が情報科担当として、コミュニケーション情報学科より一般教科に移籍されました。5学科共通の情報基礎を主に担当されます。これで、人文科学系と自然科学系を合わせた一般教科の教員数は25名となります。

また、英語科の中山悟視先生が文部科学省の在外研究員として派遣され、翌年2月末まで米国オハイオ州立大学に滞在されます。

一般教科では、数学基礎学力標準試験（5月）、物理基礎学力標準試験（9月）、実用英語検定、TOEICテスト等、基礎教育の充実をめざし校内で様々な試験を実施しております。特に低学年時は数学、英語、物理等の基礎学力養成が必要です。本校では学業と課外活動の両立を掲げて教育をしておりますが、学生の中には、放課後の学習時間の確保が十分でないケースもあります。この時期に自主的学習の習慣を確立することは、4・5年に進級する上でも、学生にとって極めて大切です。ご家庭でのご協力を切にお願い申し上げます。



機械工学科長
天野 耀鴻

機械工学科棟は改修工事が終了し、美しく機能性豊かな建物、学生の勉強に有効なコモンスペース、製図室へ3D-CAD23台設置など、3月に新たな教育をスタートしました。

本学科の教育と発展に41年間ご尽力頂いた石垣義尚教授、40年間実験・実習を補助してくれた技術専門員の高木克弘さんが3月にご退職しました。

今年度から地域の有能な技能者による協働教育を目指した「企業技術者等活用プログラム」が高専機構で採択され、非常勤講師として㈱IHI相馬工場・竹内精工㈱・大宏電機㈱・退職者など11名の技能者を招いて、後期授業の「モノづくり実習」で展開しています。特に3年生の「市民に役立つモノづくり」では、これまでNHK福島や新聞3社で報道されてきましたが、今後は企業人の協力を得る事で、さらに実践力のある豊かな創造性教育を実現し、商品化を目指したモノづくり実践教育を邁進していきます。

教職員は社会からの要請に対応できる質の高い教育を目標とすると同時に、活気溢れる学科になるように頑張っております。



電気工学科長
大槻 正伸

電気工学科では、今年度新しく豊島晋先生が赴任され学科に若い力を吹き込んで頂いております。

5年生の進路の状況は、担任の小泉康一先生のご指導のもと、進学13名（うち専攻科8名）、就職22名が決定し、卒研等に力を集中できるようになったところです。

4年生は担任の山田貴浩先生のご指導により、夏季休業中のインターンシップが全員終了し、11月の報告会で最後のまとめをしました。

また4年生は、創作実習で、高専に入ってから学んだ知識をフルに活かしてのモノづくりに取り組み、10月15日の発表会が終了しました。

3年生は専門科目も増えて、担任の山本敏和先生のご指導のもと、将来の進路についても真剣に考えるべき時期にきております。

電気工学科では、12月に3～5年生対象に学科統一試験を行い、専門学科の実力を試します。

今年度の行事もまだまだ重要なものが多く控えており、学生、教職員協力して活気ある学科として行事を着実に進めていきたいと考えております。



物質工学科長
青柳 克弘

今年度の物質工学科のスタッフは、常勤の教員に移動はありませんが、本校名誉教授の引地宏先生（環境生態学）と茨城大学名誉教授の百瀬義広先生（量子化学）を非常勤講師にお迎えしております。また、物質工学科の実験等を主に見ていただく技術職員として、佐藤潤さんと林真さんのお二人においでいただきました。

昨年度実施しました物質工学科棟の耐震工事を含む全面改修工事が終わり、この4月から新しい施設で、学生実験、卒業研究等が行われております。教員研究室の隣に卒業研究室を配置し、その前にコモンスペースを設け、ドラフトの数を増やし、実験台を新しくする等、特に安全面に配慮した造り、配置になっております。

5年生はほぼ希望通りの就職、進学先に決定しました。今年度は進学者が全体の約6割を占め、高専を大学進学の一つのステップとして考える学生や保護者が増えてきたようです。

今年度も高専らしさ、物質工学科らしさを失わずに、頑張っていきたいと思っております。



建設環境工学科長
山ノ内 正司

元気な1年生を迎え、本年度建設環境工学科は学生数201名でスタートしました。

まず5年生36名の進路状況ですが、就職希望者17名の内15名が内定しています。年々就職活動が早まる傾向にあり、早い段階での進路の決定が迫られています。残り2名は公務員試験の結果待ちです。ここ数年途絶えていたいわき市役所土木職の募集があったことは一つの朗報です。一方進学関係では、希望者19名全員が合格しており、大学編入学14名、本校専攻科5名となっています。

次に4年生の校外実習については、本年度新たな動きが見られました。というのは2ヶ所で実習を行なった者が15人にも上ったことです。この企業等での3週間にわたる経験は進路決定に大いに役立つに違いありません。なお、3週間以上の校外実習を行った者に対して、本学科では独自に実務研修として1単位の修得を認めています。

最後に、教育・研究の充実はもちろんのこと、何よりも学生が入学してよかったと感じられる学科作りに教員が丸となって取組んでいきます。



コミュニケーション情報学科長
森川 治

平成20年3月に内山昭代先生が退職、渡部順一先生および遠原智文先生が転出されました。内山先生は本学科1期生の担任を務められるなど本学科の発展に特にご尽力を頂きました。渡部先生は3月に担任として卒業生を送り出さればかりであります。三先生方のご活躍を祈念しております。

後任として平塚力先生、米本清先生および高橋雅也先生をお迎えしました。今後のご活躍が期待されます。

5年生40名の進路希望は以下の通りです。（9月30日現在）

- (1) 民間企業 16名
- (2) 公務員 3名
- (3) 進学 21名

今年度は進学希望者の多いのが特徴です。今年度の就職戦線は好調に推移し、現在民間希望者のうち15名が内定を頂いており、公務員希望者も含めて全員決定間近な状況です。また、進学希望者のうち5名は国立大学（専攻科を含む）に合格しています。大学編入学試験の本番を間近に迎え、学生達の希望がかなえられるように教員一同一生懸命指導に当たっている所です。皆様のご声援の程よろしく申し上げます。

各科の近況 [専攻科]



機械・電気システム工学専攻長
渡辺 敏夫

今年度は1年生8名の学生が入学しました。その学生も1ヶ月に及ぶインターンシップを先日終えたところで、これから、特別研究と授業に力を入れ、特にTOEIC400点以上が専攻科修了の要件になりましたので、英語の力をつけてほしいと思います。2年生12名の進路は、3名が大学院修士課程（長岡技術科学大学、福島大学）に、2名が公務員（防衛省、福島県）、1名が独立行政法人（日本原子力開発機構）、6名が民間企業（東芝、東京電力、常磐共同火力、三菱重工、JR東日本）と全員決定しています。民間企業への就職はこれまでの高専本科の実績がありますので、求人の依頼が多く非常に恵まれた状況でした。現在、2年生は学位授与機構へ学位申請書類を提出し、先日の9月24日には第3回特別研究中間発表会を行いました。これからは、特別研究の最後の仕上げと12月の東京で学位授与機構の試験、それに1月の最後の特別研究の発表会とつづきます。現在、本専攻の学生全員が充実した学生生活を送っています。



物質・環境システム工学専攻長
山ノ内 正司

専攻科が設置されて5年目を迎え、これまでの専攻科長や専攻長のご尽力により、運営面ではかなり軌道に乗ってきているように感じます。また学生達も私達の期待に応え、特別研究の遂行、特別研究の発表やインターンシップの報告、学位授与申請書類の作成と、忙しい日々を送っています。

2年生6名の進路については、就職希望の4名は希望する会社から内定を頂いており、進学希望の2名は大阪大学大学院と東京工業大学大学院に合格しています。専攻科から大学院へ流れが徐々に太くなり、より高度な研究を目指す専攻科生が続いてくれることを期待しております。

1年生のインターンシップでは、大きなテーマに取り組んできた学生も多く、その専門性は高く評価されています。インターンシップ報告会で説明する姿に専攻科生としての自信と誇りを感じたのは私だけではなかったと思います。

専攻科修了生がこの自信と誇りを忘れずに大学生とは一味違う活躍をしてくれることが、さらなる専攻科の充実につながるものと確信しています。



ビジネスコミュニケーション専攻長
脇田 淳一

平成20年3月に渡部順一先生、遠原智文先生が大学に転出され、新たに平塚力先生をお迎えしました。平塚先生のご専門は経営学で、専攻科では経営学特論Ⅰ、Ⅱ、市場戦略論及び特別研究等を担当されます。

1年生は3名が入学し（内1名は休学、海外留学中）、研究室も決まり2年間の研究活動を開始しました。夏季休暇中に長期インターンシップを終え、企業の新しい風を全身に浴び、また新たな意欲を持って学校に帰ってきました。10月3日にインターンシップ報告会が行われ、活発な質疑応答が交わされました。また、特別研究の第1回中間発表会が10月17日に行われました。

2年生8名は、9月24日に特別研究の第3回中間発表会を行い、学位授与機構への学修レポート提出も終了しました。進路は公務員を含む就職希望で、近々全員の進路が決定するものと考えています。

今後も専攻科の教育・研究にご理解と御支援をいただけますようお願いいたします。

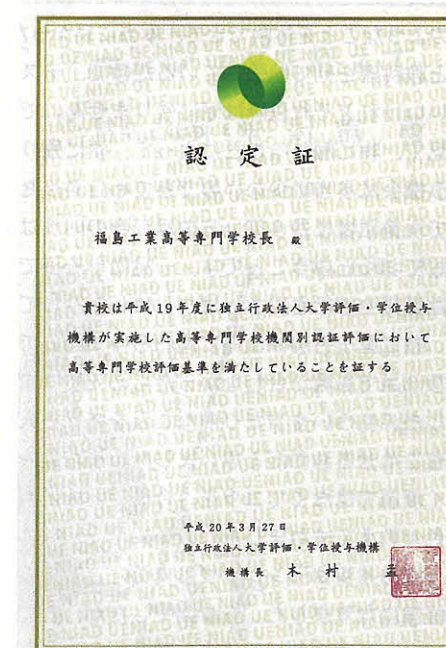
認証評価

高等専門学校機関別認証評価 合格認定されました

前校長補佐(評価担当) 渡辺 博



福島高専は、昨年度独立行政法人大学評価・学位授与機構（N I A D）が実施した「平成19年度高等専門学校機関別認証評価」を受審し、去る3月27日にその合格認定を受けました。周知のごとく平成16年度に独立行政法人化された全国55の国立高等専門学校は、その教育研究活動等の状況を今後一定期間（原則7年）ごとに、文部科学大臣から認証を受けた評価機関（大学評価・学位授与機構）による評価（認証評価）を受けることが義務づけられています。本校は、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審するため、昨年6月末に当機構に対して認証評価の自己評価書を提出し、その後実施された7～8月の書面審査と11月末の訪問調査を経て、本年3月27日に同機構から「すべての評価基準を満たしている」との合格認定を受けました。

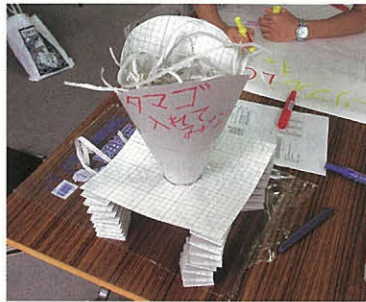


認証評価の目的は、第1に高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること、第2に評価結果をフィードバックすることにより高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること、そして第3は高等専門学校の教育研究活動等の状況について、社会に対しその説明責任を果たし、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことにあり、その評価基準の構成は基準1の「高等専門学校の目的」から基準11の「管理運営」にまで及んでいます。今回の認証評価結果では、本校のこれまでの教育研究活動等の状況がこれらの評価基準をすべて満たし、本校の教育の大きな柱である「複眼的な視野をもつ職業人の育成を目的としたシナジー（協働）教育の実践」や「創造性を育む特徴あるモノづくり実践教育の試み」等を含む4つの項目が特に優れた点として高い評価を受けました。また本校は、認証評価とは別に定められた二つの選択的評価事項A「研究活動の状況」およびB「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価も同時に受審しましたが、これらの評価事項についても「達成状況が良好である」として高い評価を受けました。最後に、今回の認証評価受審に当たっては、認証評価委員会及び小委員会を中心として、多くの教職員および学生等の関係各位から暖かいご支援とご協力を頂きました。これらの方々に対して改めて心から深く感謝の意を表します。

インターンシップを終えて

機械工学科4年 石山 宏哉

僕は企業であるサントリーにインターンシップということで5日間お世話になってきました。化学的な知識が必要だったらどうしようかと不安があったものの、行ってみると内容は工場見学とグループワークだと説明され安心しました。工場見学はビール工場、次に清涼飲料水工場、ウィスキー工場といった順に3ヶ所を見学しました。かなり高い温度で除菌をするため工場内は40度近く、働いている人の苦勞を肌で感じました。見学後の高専卒業社員の方との懇談では、就職の理由を聞いたりでき、とても貴重な体験になりました。



グループワークの内容は、班ごとに分かれて「2mの高さから卵を落としても割れない装置」を製作することでした。3時間という短時間でアイデアをまとめ、完成したときは感動でした。卵も、うまく割れずにキャッチし成功でした。最終日には工場見学で学んだことを元に新聞作りをしました。初めて会った人たち同士で協力して作業するのは大変でしたが、その反面楽しく、いい思い出になりました。



ひとつの製品を作るのに、たくさんの人の手とさまざまな技術が使われているのだと今回のインターンシップで感じました。そして、早く自分もそんなものづくりの世界で製品を作りたいです。

インターンシップを終えて

機械工学科4年 上田 卓也

僕たちはアトックスという千葉県にある技術開発センターに研修をしに行きました。

スケジュールとしては、1日目にオリエンテーション、午後からは壁面除染機（原子力発電所のウェルと呼ばれる円筒状のプール壁面の汚染物質を除去する装置で、除染機と走行台車で構成されている。）の組み立ての作業をしました。2日目も1日目の続きをして、3日目からは組み立てた機械の計測を行い、走行台車を現



状のものよりより良い物にするため、改良をしてそれをCADで製図する作業をしました。4日目もその続きを行い、最終日は今まで製作していた除染機の走行確認をして、改良した走行台車の発表を行いました。

上記のようなことを体験できて、本当に良かったです。学校だと教科書を見て勉強しているだけで、テスト前とかにはいいけれどそれ以降は頭に残りません。でも実際に目で見て、物に触れることによって、頭に残ります。こういう機会は本当に少ないのでとても良かったです。その中で一番記憶に残っているのは、身の回りは常に整理整頓しておくということです。一見簡単そうでも使い終わった道具や部品を置きっぱなしにしたりしてしまいました。特に原子力関係は命に関わる作業なのでどんなに小さな部品でも数が合わなかったら必死に探すと言っていました。こういう当たり前のことをできる人が難しい作業もこなせるものだと思います。また、みんな優しく理屈ではなくてコツを、今後のためにものすごく色々教えてくれました。

今回のインターンシップは自分にとってとてもいい経験になりました。5日間でしたが、とても濃い時間になりました。研修中に教わったことをこれから生かして生きたいと思っています。

インターンシップを終えて

電気工学科4年 濱尾 将太郎

私は8月4日から8日までの5日間、千葉県柏市にある株式会社アトックス技術開発センターで実習を行いました。この期間、全国各地の高専から私を含め計8人の学生が集まりました。

実習は機械班と電気班に分かれて、主に原子力発電所内のウェルの壁面を洗浄する壁面除染機の製作をするという内容でした。私は電気班の1人として参加しました。電気班は壁面除染機の配線の接続作業を行いました。配線の接続は、はんだ付けで行い、その後に接続した箇所を収縮チューブを使用して防水加工を施すというものでした。学校で行った実習とは比べ物にならない程細かい作業でしたが、とてもやりがいのある作業でした。

私は会社という場所はとても堅い雰囲気のある場所



あると思っていましたが、実際にはとても和やかな雰囲気自分のイメージしていたものとは全く違っていました。社員の方々は気さくな方ばかりで、親切かつ熱心に指導してくださり、とても充実した5日間を過ごすことができました。

また、会社での作業や現地での生活を通して他高専の学生とも交流を深めることができ、とても貴重な経験をすることができました。

最終日に行った壁面除染機の模擬走行試験では、自分達が製作した壁面除染機を実際の4分の1サイズのウェルで動作させました。正常に動作してくれるかどうか心配でしたが、何の問題もなく正常通りに動作してくれたので良かったです。

今回のインターンシップは私にとって経験のない事ばかりで、大変意味のあるものでした。この経験を今後の自分の進路や学生生活に生かしていきたいと思っています。

インターンシップを終えて

電気工学科4年 対馬 啓介

私は8月4日から東北電力の研修センターにて研修を行いました。この研修では、電力に必要な技術として発電、配電、系統保護・操作などの講義・実習を行いました。



講義では、研修センターの講師の方が基本的なことから専門的なことまで教えていただきました。スライドや配布資料があり、わかりやすい講義でした。実習では、研修センターの施設を利用して様々

な体験をすることができました。どれも普通は経験できないことばかりで驚いてばかりでした。さらに、講師の方から電気を作り届ける立場としての責任の大きさやそれに対する心構え、事故防止のためにできることなどのお話を聞くことが出来たのはとても貴重な経験をしたと思います。しかし、講義・実習の時間は午前午後共に4時間ずつあり、講義ごとにレポートを書いて提出しなければならないのは苦勞しました。

研修センターでは東北電力の社員の方も研修を行っていました。すれ違う人みんなが「おはようございます」や「お疲れ様です」などのあいさつをしっかりと行っていてとても素敵だなと思いました。あいさつは重要なことだと改めて思いました。

今回この研修では、多くのことを学ぶことが出来ました。5日間という短い期間でしたがとても充実していたと思います。この研修で得たものをこれからの学校生活に生かしていきたいと思っています。

インターンシップ報告

インターンシップで得たもの

物質工学科4年 植田 友美

私は埼玉県羽生市にある、株式会社クレオでインターンシップを行いました。前半の週では、除菌洗剤の除菌効果を比較する実験を行いました。菌の植え付けや培養、発生したコロニー数の測定など初めての作業でしたので多少失敗もありましたが、普段の実験の知識のおかげで、スムーズに作業を進めることができました。しかしその後のレポート作成では期限内に提出することができず、自分が普段怠けていたことが結果として表れ、非常に悔しい思いをしました。後半の週では、最終日の夏祭りで使用するBBQの台の製作を行いました。まさか



インターンシップで自分が作業を着て、ドラム缶の切断やバリ取り、溶接などをするとはいってもいいかもしれません。しかし作業は意外にも面白く、自分たちの作

る台が完成するにつれてだんだんと喜びが増してきました。肌で『ものづくり』の楽しさを実感することができ、他分野のことを学べたことは大きな収穫となりました。インターンシップでは実習内容はもちろんの事、社会でのルールや企業での人との付き合い方など、非常に得たものが大きく、来年の進路選択の際にも参考になると思います。

最後に、2週間一緒だった他高専の実習生には、慣れない機械作業を手伝ってもらった大変お世話になりました。金曜日の夜のことや一緒に過ごした休日など、最高の『仲間』との忘れられない思い出ができました。また、忙しい中いろいろと指導してくださった社員の方々には大変感謝しています。



インターンシップを終えて

物質工学科4年 櫛田 絵理香

私は株式会社クレハいわき事業所に、2週間のインターンシップを受け入れていただきました。

いわき事業所は112万㎡の広大な敷地を持ち、およそ800人が働いています。5つの工場と、5つの間接部門に分かれている中で、医薬品工場技術課と医薬品品質保障部にお世話になりました。

医薬品工場では、クレスチンという抗悪性腫瘍剤、クレメジンという慢性腎不全用剤、マツマックスという栄養補助食品を製造していました。特にクレスチンとクレメジンの製造について詳しく教えていただきました。まず、クレメジンとクレスチンの製造工程の原理を、説明していただきました。そのあと実際に工場の中を見学させていただきました。どのように製造しているのかを知ることができました。それぞれの製造工程に合わせて工夫された機械を用いていることに驚きました。医薬品品質保障部では、医薬品を製造するための特別な決まりや意識、責任があるために、品質上の安全について細心の注意を配っていることがよくわかりました。また、製造工程の

原理をよりよく理解するために、ラボ機による実験を見学させていただきました。製造品サンプルの分析実験を体験させていただき、今までに得た知識や技術を使うことの喜びを感じました。

自分の行動に責任を持つこと、知識や技術を活用することの楽しさ、向上心を絶やさずに変革を求めることなど、大切なことを学ぶことができました。貴重な経験をさせていただいたことに感謝して、将来に役立てていきたいと思っています。



インターンシップ報告

建設環境工学科4年 植田 耕平

私は新日本製鐵株式会社技術開発本部の土木建築技術部で、2週間インターンシップを行ってきました。鉄鋼業に土木分野がどのように活かされているのかに興味を持ち、研修を申し込み、受け入れてもらえることになりました。

研修のテーマは「製鋼スラグの建設や環境改善へのリサイクル利用技術開発」です。現在、港湾などの浚渫に伴って発生する大量の土砂と、製鉄における副産物であるスラグを混ぜ、浅瀬や干潟に再利用する技術が考えられています。私はこれに関する様々な実験データの分析を行いました。使用した知識は基本的なものが多かったのですが、土木、化学、数学など様々な分野の知識が必要で、技術開発の大変さを感じました。

今回このインターンシップでは、貴重な体験をすることが出来ました。まず東京ディズニーランド90分もある製鉄所内の広大な敷地を車で1周見学、説明していただきました。また、実験を行っている専門の機関に訪問

し、直接実験を見ることが出来ました。現場を生で見ることは専門的な知識を得るいい機会となりました。職場の方々や高専の先輩から聞くことができた話はどれも、今の自分にも将来の自分にも非常にためになったと思います。これから自分がどうすべきなのか、少しだけわかったような気が

がします。このインターンシップでの経験すべてが、今後の自分に活かせるよう、これからの高専生活を充実させていきたいと思っています。

とても有意義なインターンシップでした。



都市計画を知る

建設環境工学科4年 吉田 奈月



私は、長岡技術科学大学に1週間、いわき市役所に2週間のインターンシップを行いました。

大学では、現代GPオープンキャンパスに参加という形で、都市計画研究室にて先生の講義やNPOの講演を聞いたり、学部生や院生のゼミ発表に参加したりしました。ここでは、演習課題として実際のまちを採りあげ、持続可能なまちをめざす将来計画の立案を中心に私たちは活動を行いました。大学の先輩達は、一緒に現地調査を行ったり、計画立案の際にはいろいろとアドバイスをしてくれたり、都市計画についての知識が浅い私たちに、とても丁寧に教えてくれました。何とか出来上がった計画案も最終日に発表し、担当の先生方や研究室の皆さんに評価をもらうことができました。自分では気づかなかった点や反省点を教えていただき、

とても勉強になりました。

いわき市役所では、都市計画課を中心に都市整備課や公園緑地課、総合交通対策室で研修を行いました。それぞれの係の概要や仕事の内容などの説明を受け、現地見学としていろいろな場所に連れて行ってもらいました。現地見学では、区画整理事業が行われている地域やラトブ、平競輪場、アリオスなど普段は入れないような場所にも入ることができました。

今回のインターンシップでは、大学で学ぶ都市計画と実際の現場で行われる都市計画の違いを知ることができました。お世話になった皆さんに感謝し、この夏に学んだことを今後に生かしていきたいと思っています。



インターンシップを通して学んだこと

コミュニケーション情報学科 4年

木田 明日花

私は、8月18日から29日（実働10日）の間、アルパイン株式会社いわき本社の品質保証部でインターンシップを行いました。



品質保証部門では、顧客に満足していただける品質の良い商品・サービスを提供することをミッションにしています。また、設計・開発、工程・製造、市場・顧客の現場で品質保証活動をしています。今回、品質や顧客満足に対する考え方や理解を深めることなどを研修の狙いとして行いました。インターンシッ

プの期間中に、品質保証部門の業務内容、製品化プロセスを理解することや、実際の業務を体験することをしました。実際の業務を体験するというので、



AOI W-Y S 見学や、製品解析室でスピーカーの音の歪の調査、Navi や Audio の不具合の確認、IC のはんだ除去など、貴重な体験をさせていただきました。

約2週間という短い期間に、今までにしたことのない貴重な体験をすることができました。また、顧客を満足させるために、製品の性能だけでなく、サービスやユーザーの暗黙の要望（needs）が重要であることや、インターンシップを通じて出会った方々からも多くのことを学びました。そして、今回のインターンシップの期間中に学校の授業などで学んだ部分の重要性や自分の勉強不足などを強く感じました。

最後に、お忙しい中ご指導して下さった品質保証部門の皆様へ感謝するとともに、今回の貴重な体験を活かして、これからの残りの福島高専での生活や、今後の進路のために一層励んでいきたいと考えています。

インターンシップ体験から学んだこと

コミュニケーション情報学科 4年

矢吹 成

私は8月18日から26日までの10日間、東京にある国立社会教育実践研究センターにてインターンシップを行って参りました。国立社会教育実践研究センターとは文部科学省に属する国の機関であり、日本で実践されている社会教育の実態を調査、研究する施設です。何故この職場をインターンシップ先として選んだかという、国家公務員とはどのような仕事をしているかが知りたかったからです。

私のインターンシップ期間は、社会教育実践研究センターで年に2回行われる社会教育主事講習の期間と重なっていました。社会教育主事講習とは、北は北海道、南は沖縄県まで各都道府県から選ばれた数名の人たちが1ヶ月間通い詰めで行う講習会です。私の仕事は講習資料の作成、社会教育主事講師データベースの作成など講習に関するものが主でした。上記の業務以外にも実際に講義に参加させて頂いたり、講習会の参加者の方たちの懇親会のほうに参加させて頂いたり、様々な方たちの興味

深い話を拝聴することができました。

満員電車での通勤など、確かに東京の環境はいわきとはかけ離れていました。しかし、職場の人たちはみな温かく素敵な人たちばかりで国家公務員の方たちに抱いていたイメージが改まりました。また、全国が動くレベルの大きなプロジェクトに少しでも関わることができたこと、職場の人たちの温かい指導のもと学べたことは私自身の見識を深めると同時に、自信にもなりました。このインターンシップでの新たな出会いや学びを忘れることなく、日々精進の気持ちで勉学に励んでいきたいと思っています。



原子力発電所でのインターンシップを終えて

機械・電気システム工学専攻 1年

小川 浩史

私は東京電力の福島第二原子力発電所で研修活動を行ってきました。私はその原子力発電所がある富岡町出身です。そのため、幼い頃から原子力発電所は当たり前の存在として生活してきました。原子力発電について、より理解を深めたいと思い研修を希望しました。

研修では、講義や施設の見学が中心でしたが、新入社員の方と同じ内容の研修を受けたり、一般の見学者は入れないような深層部まで見学することができました。疑問に思った点があれば、素人の私たちでも理解できるように、分かり易く丁寧に説明して下さいました。また、



年齢が近い若手社員の方や、福島高専卒の社員の方とも、じっくりと話をすることが出来ました。具体的な業務内容や、仕事や寮生活の感想など、快く話していただきました。

「原子力発電」という言葉を聞いて、皆さんはどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。マイナスなイメージが思い浮かぶ方も多いと思います。確かに、福島第二原子力発電所を管理している東京電力は、過去に不祥事が発覚し、大きく信頼を損ねてしまいました。しかし、今では信頼を取り戻すために、徹底した再発防止策や企業風土改革に力を入れていました。私は今回の研修を通して、東京電力は不祥事を過去の教訓として、同じ過ちを繰り返さないように力強く前進し始めていると感じました。

4週間という限られた研修期間ではありましたが、担当して頂いた労務人事の方々をはじめ、講師の方々、研修指導員の方々など、お世話になった全ての人が、本当に親切で丁寧に面倒を見て下さいました。研修に行ってよかったと思いました。本当にありがとうございました。

インターンシップを終えて

物質・環境システム工学専攻 1年

折笠 匠

私はニッソー樹脂株式会社（小名浜工場）で、4週間のインターンシップを行いました。小名浜工場では、防錆・防湿用乾燥剤、災害時簡易トイレや脱酸素剤などの製品を製造しています。乾燥剤は主に金属部品輸送時の防錆のために用いられています。脱酸素剤は食品を長持ちさせるために使われ、皆さんもよく目にしていると思います。

機能製品技術室において「原材料代替検討について」という実習テーマをいただき、乾燥剤の原料である無水塩化カルシウムについて様々な測定を行いました。学校で使ったことのない機器もありましたが、担当の方に詳しく教えていただきました。また、工場内も原料から製品が作られ、検査を終えて出荷される工程をすべて見学させていただきました。製造工程では、私が想像していた以上に多くの機械が導入されていて、品質管理も非常に厳しく行われていた

ため驚きました。

私はこのインターンシップを通じて多くの経験を得ました。4週間もの長期間にわたって研修できたことはとても貴重な経験になったと思います。特に、製品開発がどのように行われるのかを身をもって経験させていただくことができ、ほんとうに良かったと思います。

最後になりましたが、このたび大変お忙しい中長期間のインターンシップを受け入れて下さったニッソー樹脂株式会社の皆様にはほんとうに感謝しています。ありがとうございました。



インターンシップ報告

internship

6週間のインターンシップ

ビジネスコミュニケーション学専攻 1年 久野 祐



私は8月11日から9月19日まで、国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所でインターンシップを行いました。

私が配属されたのは企画調整課で、ここでは小名浜港の利用促進をはかるため、自治体、企業、地元の事業者たちとの連絡調整を行っています。そのほか小名浜港を多くの人に認知してもらうための広報活動として、小中学校の生涯学習の受入れも行っています。

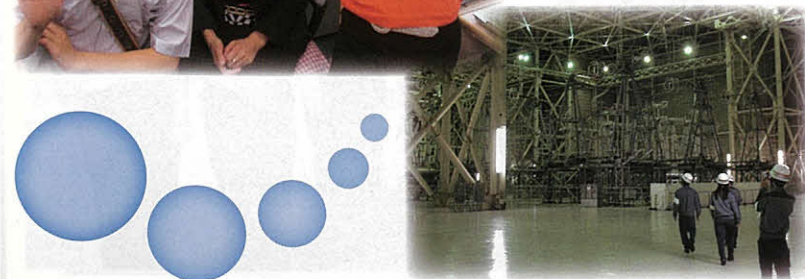
私は主に広報活動のお手伝いとして、8月24日に開催

されたおなほ海遊祭で、小名浜港の情報ニーズを探るためのアンケート調査を行いました。インターンシップ後も調査結果をもとに、小名浜をより良い港にするにはどうすればよいのかを考えていけたらと思っています。

またインターンシップ中は、アクアマリンふくしまやいわき・ら・ら・ミュウに広報活動にヒアリングに行くこともできました。観光スポットの広報という、めったに聞けない話を聞いたのは意義深いことなので、これを今後の勉学などに活かせたらと考えています。

インターンシップ中は、事務所の方々が私を所員と同様に対応してくれましたので、とても働きやすい環境で業務を行うことができました。また、お昼休みに事務所の皆さんとやった野球の練習がよい思い出として残っています。最初は長いと感じていた6週間も、小名浜港湾事務所ではあっという間に過ぎていった気がします。

事務所の方々ならびに先生方、6週間ありがとうございました。今回のインターンシップを糧に、私は自身の研究や就職活動がんばっていきます。



タマサート大学との学生交流

「タイでの18日間」

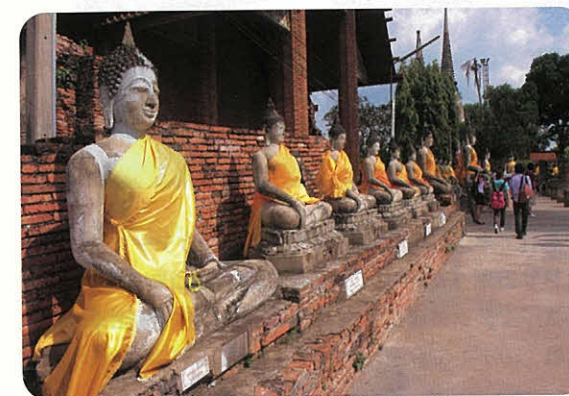
建設環境工学科3年 家子 静

人生初海外…とても内容の濃い18日間でした。言葉、食べ物、習慣、市場、学校、寺院、政治etc…14日間のホームステイを通して、ただの旅行では感じられないリアルなタイを感じられたと思います。猛暑のなか1日中、空のコップを持って座っていた乞食の小さな男の子がいたり、自分がいかに恵まれているか考えさせられた18日間でもありました。出発前は不安だらけでしたが、ホストファミリーをはじめ、たくさんの方々に助けてもらいながら、毎日がとても楽しい18日間を過ごすことができました。



物質工学科4年 吉田 貴洋

自分はタイに行く前は正直不安要素だらけでした。もともと友達から誘われてたのですが、急遽その友達が行けなくなってしまったり、前にインターンシップがあったため説明もまともに受けられませんでした。何より初めての海外だったので結構緊張してました。でも実際タイに着いてみると毎日新しい発見が楽しくてすぐに緊張は解けました。ホストファミリーの人たちはわかりやすい英語で接してくれたので楽にやり取りできました。表現力不足でまだまだ伝えられないこともたくさんありますが本当に行ってよかったと感じています！



ビジネスコミュニケーション学専攻科2年 冨塚 直人

今回の交流において私には二つの目的がありました。一つは観光です。タイの歴史ある建造物は造りが細かく綺麗なものが数多くありました。タイの学生やホストファミリーに連れてってもらい、彼らとの非常に良いコミュニケーションにもなりました。二つ目は、タイの文化や生活を体験するという事です。夜はエアコンがガンガン効いた部屋で眠り、通学には自動車の排気ガスで充満した道路の中を窓全開のバスで学校に向かうなど、ホテル泊の観光旅行では出来ないような貴重な体験をすることができました。文字ではうまく書き表せませんが、この交流は続けていって欲しいと思います。





平成20年度 1日体験入学を終えて

入学対策専門部会長 森 川 治

今年度で14回目を迎えた1日体験入学は、昨年度とほぼ同時期、8月8日(金)、9日(土)の1日半で実施しました。例年通り、午前中はいわき地区を、初日の午後はいわき地区以外を対象としました。初日は猛暑の中の実施となりましたが、大きな問題もなく、例年通りの日程で、計画通り実施することができました。

午前の部	日 程	午後の部
8:00～8:20	受 付	12:30～12:50
8:20～8:50	開 校 式	12:50～13:20
9:00～11:55	デモ実験見学	13:30～16:25
12:00～12:10	閉 校 式	16:30～16:40

ここ数年の参加者数は、15年度700名、16年度611名、17年度838名、18年度781名そして19年度687名と減少傾向、今年度は、昨年度と同数の687名でした。中学生は27名減少、一方、保護者が30名増加、特にいわき地区では保護者が40名の増加、保護者の熱心さがうかがわれます。

参 加 者 数	生 徒	教 諭	保護者	合 計
い わ き 地 区	342	24	109	475
い わ き 地 区 以 外	122	4	86	212
合 計	464	28	195	687

今年度の各学科のデモ実験のテーマと内容をご紹介します。



●機械工学科

“君のモノづくりが世界を変える”というテーマで、①学科紹介DVD ②身近にあるモノでロボット

を作ろう ③ライトレーサーで遊ぼう ④「市民に役立つモノづくり」のデモ実験が行われました。



●電気工学科

“ふれてみよう電子情報の世界”というテーマで、①センサ万別?な、アイデア回路をプロデュース ②磁気浮上テクノロジーで「クリーン」と「省エネ」に挑戦 のデモ実験が行われました。



●物質工学科

“化学への招待ー物質工学科の実験を観て、そして体験してみようー”というテーマで、①ホタルの光を作ってみよう ②液体の性質について調べてみよう ③いろいろな色の炎を作ってみよう のデモ実験が行われました。



●建設環境工学科

“環境にやさしい建設技術”というテーマで、①「地震から街(まち)を守るには?」 ②「こんなまちに住みたいな」のデモ実験が行われました。



●コミュニケーション情報学科

“Reach Your Dreams!”というテーマの下、①学科紹介ビデオ ②英語劇 ③経営情報ってなにが行われました。



○交流コーナー

“本校からのメッセージ”ということで、①学校紹介コーナー ②入試相談コーナー ③休憩コーナーを準備し、休憩時間などに自由に見学したり相談できるようにしました。また昨年同様、知能ロボット、デザコンの実演コーナーも設け、楽しんでもらいました。

実施後、アンケート(回答数 中学生399、引率者140)を採りました。非常に好評でした。ただし、環境の美化にもっと配慮すべきであるという貴重な助言を頂きました。アンケートの主な項目を挙げます。

1. 見学時間について

見 学 時 間	生 徒	引率者	全 体
短 い	13.3%	4.3%	10.9%
ちょうど良い	73.4%	83.6%	76.1%
長 い	12.3%	8.6%	11.3%
無 回 答	1.0%	3.5%	1.7%

暑さのためか、「長い」と感じた参加者が、例年より多いようです。しかし、大部分の参加者は、適度な長さと感じられています。

2. どの学科が良かったですか? (複数回答)

良 かった 学 科	生 徒	引率者	全 体
機 械 工 学 科	52.1%	52.1%	51.9%
電 気 工 学 科	42.9%	47.9%	44.2%
物 質 工 学 科	71.7%	60.0%	68.6%
建 設 環 境 工 学 科	29.3%	35.7%	31.0%
コ ミ 情 報 学 科	39.6%	46.4%	41.4%
無 回 答	0%	0%	0%

全般的に好評だったようですが、物質工学科および機械工学科が抜き出ているようです。

3. 志望校を選ぶ場合の条件は何ですか (複数回答)

条 件	生 徒	引率者	全 体
専 門 的 教 育	59.6%	52.1%	60.5%
就 職 率 の 高 さ	44.9%	55.7%	52.5%
学 校 の 雰 囲 気	47.6%	46.4%	45.4%
進 学 の 実 績	45.9%	55.7%	44.6%
部 活 ・ ク ラ ブ 活 動	27.8%	7.9%	21.6%
通 学 が 便 利 か	21.3%	10.0%	18.2%
学 費	13.8%	20.7%	15.1%
寮 の 有 無	9.5%	18.6%	11.7%
生 活 指 導	12.3%	0.7%	6.7%

昨年度より取り入れたアンケート項目です。昨年同様、「専門的教育」「就職の実績」「学校の雰囲気」「進学の実績」が重要視されています。また、「部活・クラブ活動」を除いて中学生と引率者に殆ど差はないと言えます。

準備から実施まで多くの方々にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

掘り起こせ！未知なる能力

第19回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

この10月11日、12日の2日間にわたり、第19回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（高専プロコン）が、福島高専でいわき明星大を会場にして開催されました。

これは全国生涯学習フェスティバル「まなびピア」とともに各県を回る行事で、全国の国公私立高専生が開発したコンピュータプログラムの優秀さを競うものです。今回は「掘り起こせ！未知なる能力」をキャッチコピーに、例年通り「課題」「自由」「競技」の3部門で実施されました。

今年も中国、ベトナム、モンゴルから海外チームが参加し国際化も進んだ大会となっています。

課題、自由部門はそれぞれ6月の予選を通過した20作品が、この2日間の本選で、1日目のプレゼンテーション、2日目のデモにより審査されます。

課題部門は「ゆとりを生み出すコンピュータ」をテーマにした20作品の中から、米子高専の「BOOK・ON-新感覚ユーザインターフェース本型入力装置」と題した新しい発想の入力システムが最優秀賞を受賞しました。

自由部門は全く自由なテーマでプログラムを開発するもので、20作品中、諒間電波高専の「写動-シャドウ」というコンピュータを用いた影絵システムの作品が最優秀賞を受賞しました。福島高専からはプログラミング愛好会が「そうだ。みんなで描こう」というチャットをしながらみんなで絵を描くシステムを自由部門に応募し、敢闘賞を受賞しました。

競技部門は、毎年競技内容が変わります。今回は「フラッと収集車」という題の同時複数チーム対戦型の、「最短経路を求める問題」と「経路上にある仮想のお土産取り合い」が混じった内容の複雑なゲームです。今回は、高専をアピールするよい機会ですので、競技部門に高専プロコン史上はじめて地元の中学生にもオープン参加してもらいました。ただ、残念なことに競技部門はゲームを管理するサーバーのプログラムに不具合が発見され、競技を最後まで実施することができず、大会終了後インターネットを通じて再競技が行われることとなりました。

今年は天候にも恵まれ、一般入場者は約300人にのぼり、2日間の大会が終了しました。

来年度は第20回の記念大会を木更津高専が主管し千葉県で開催されることになっています。



背景ポスターデザイン：大原 直也（コミュニケーション情報学科卒業）
キャッチコピー：増田佳那子（コミュニケーション情報学科5年）

学 生の活躍 —クラブ活動等の結果—

高専体育大会の結果



—東北地区大会— 一関大会

■陸上競技（男子）

学校対抗	優勝
100m	稲場豊由季（5 E）第3位
800m	伊藤 良（4 M）第1位
1500m	坂本 貴史（4 E）第2位
5000m	山崎 翔太（5 K）第1位
110mH	星 尚之（4 I）第2位
3000m S C	坂本 貴史（4 E）第2位
	鵜名山 俊（3 C）第3位
4×100m R	中村・稲場・佐藤・星 第1位
4×400m R	安島・伊藤・星・稲場 第2位
走幅跳	佐藤 義剛（3 M）第2位
"	稲場豊由季（5 E）第3位
三段跳	佐藤 義剛（3 M）第1位
"	大澤 晋作（4 M）第3位
砲丸投	星 尚之（4 I）第2位
円盤投	吉田 出（2 E）第1位
"	高萩 滋光（3 M）第2位
やり投	宮川 智行（5 E）第1位

■陸上競技（女子）

学校対抗	第2位
100m	久保田有希（5 C）第2位
800m	久保田有希（5 C）第1位
4×100m R	永久保・久保田 第1位
	小野・河原田 第1位
走高跳	河原田あさ美（5 I）第2位
走幅跳	河原田あさ美（5 I）第3位
円盤投	松原 若菜（1 C）第2位

■バスケットボール（男子）



■バスケットボール（女子）

■卓球（男子）

団体戦	第2位
シングルス	水野 潤樹（4 K）第3位
ダブルス	（丹野 淳（3 K）第3位
"	（水野 潤樹（3 K）第3位

■卓球（女子）

シングルス	西山 綾香（5 K）第1位
"	小野 緑（2 K）第2位
"	安島 真理（2 I）第3位
ダブルス	（小野 緑（2 K）第1位
"	（安島 真理（2 I）第1位
"	（猪狩 美咲（2 C）第2位
"	（安島 恵理（2 I）第2位

■テニス（男子）

団体戦	第3位
シングルス	武田 章宏（2 K）第1位
"	小堀 健生（3 C）第3位
ダブルス	（武田 章宏（2 K）第1位
"	（小池 亮輔（4 M）第1位
"	（大平 隆裕（4 E）第2位
"	（小堀 健生（3 C）第2位



■テニス（女子）

団体戦	第1位
シングルス	海野 沙織（4 C）第3位
"	馬上 春菜（5 I）第3位
ダブルス	（四家 彩渚（4 C）第1位
"	（馬上 春菜（5 I）第1位
"	（海野 沙織（4 C）第2位
"	（横田 愛梨（3 C）第2位

■剣道（男子）

個人戦	三浦 慎平（4 E）第2位
-----	---------------

■バドミントン（男子）

団体戦	第1位
シングルス	小松 祐城（4 E）第1位
ダブルス	（比佐 光一（4 E）第3位
"	（伊藤 勲信（3 K）第3位

—福島大会—

■ソフトテニス（男子）

団体戦	第3位
-----	-----

■柔道（女子）

個人戦（48kg級）	中藤 夏海（1 M）第1位
------------	---------------

■サッカー		第2位
■水泳(男子)		
学校対抗		優勝
100m自由形	藁谷 庄平(4M)	第1位
"	蛭田 昌孝(4M)	第3位
200m自由形	蛭田 昌孝(4M)	第1位
800m自由形	藁谷 庄平(4M)	第1位
100m平泳ぎ	浅田紳太郎(4M)	第2位
200m平泳ぎ	浅田紳太郎(4M)	第1位
200m背泳ぎ	若松 大介(2E)	第3位
400mメドレーリレー	蛭田・浅田・山口・藁谷	第1位
400mリレー	藁谷・蛭田・西間木・山口	第1位
800mリレー	藁谷・蛭田・西間木・山口	第1位

■水泳(女子)		
学校対抗		第2位
100m自由形	大原 早樹(5K)	第1位
100m平泳ぎ	高橋 奈々(2I)	第2位
200m平泳ぎ	高橋 奈々(2I)	第1位
50m背泳ぎ	大原 早樹(5K)	第1位
200mメドレーリレー	大原・家子・高橋・猪狩	第2位
400mリレー	高橋・家子・猪狩・大原	第3位

一全国大会一



■陸上競技(男子)

函館高専(函館市千代台公園陸上競技場)		
学校対抗		第9位
100m	稲場豊由季(5E)	予選敗退
800m	伊藤 良(4M)	予選敗退
1500m	坂本 貴史(4E)	予選敗退
5000m	山崎 翔太(5K)	第5位
110mH	星 尚之(4I)	予選敗退
4×100mR	中村・稲場・佐藤・星	第4位
4×400mR	安島・伊藤・星・稲場	第5位
三段跳	佐藤 義剛(3M)	第3位
"	大澤 晋作(4M)	予選敗退
砲丸投	星 尚之(4I)	第7位
円盤投	高萩 滋光(3M)	予選敗退
"	吉田 出(2E)	予選敗退
やり投	宮川 智行(5E)	予選敗退

■陸上競技(女子)

100m	久保田有希(5C)	予選敗退
800m	久保田有希(5C)	予選敗退

■卓球(女子)

釧路高専(釧路市厚生年金体育館)		
シングルス	小野 緑(2K)	第2位
"	西山 綾香(5K)	予選敗退
ダブルス	(小野 緑(2K) 安島 真理(2I))	第1位

ダブルス	(猪狩 美咲(2C) 安島 恵理(2I))	第2位
------	--------------------------	-----

■テニス(男子)

旭川高専(花咲スポーツ公園テニスコート)		
シングルス	武田 章宏(2K)	一回戦敗退
ダブルス	(武田 章宏(2K) 小池 亮輔(4M))	一回戦敗退
"	(大平 隆裕(4E) 小堀 健生(3C))	ベスト8

■テニス(女子)



ダブルス	(四家 彩渚(4C) 馬上 春菜(5I))	第1位
"	(海野 沙織(4C) 横田 愛梨(3C))	一回戦敗退

■剣道(男子)

釧路高専(釧路高専第一体育館)		
個人戦	三浦 慎平(4E)	一回戦敗退

■バドミントン(男子)

函館高専(函館市民体育館)		
団体戦		一回戦敗退
シングルス	小松 祐城(4E)	ベスト8

■柔道(女子)

函館高専(函館高専第一体育館)		
個人戦(48kg級)	中藤 夏海(1M)	第3位

■水泳

苫小牧高専(野幌総合運動公園温水プール)		
学校対抗		優勝
(男子)		

100m自由形	藁谷 庄平(4M)	第2位
"	蛭田 昌孝(4M)	予選敗退
200m自由形	蛭田 昌孝(4M)	第6位
800m自由形	藁谷 庄平(4M)	第2位
100m平泳ぎ	浅田紳太郎(4M)	第1位
200m平泳ぎ	浅田紳太郎(4M)	第1位
200m背泳ぎ	若松 大介(2E)	予選敗退
400mメドレーリレー	蛭田・浅田・山口・藁谷	第3位
400mリレー	藁谷・西間木・山口・蛭田	第2位

(女子)

100m自由形	大原 早樹(5K)	第2位
100m平泳ぎ	高橋 奈々(2I)	第3位
50m背泳ぎ	大原 早樹(5K)	第1位
400mリレー	大原 早樹(5K)	第1位
(東北選抜)		
"	高橋 奈々(2I)	第3位
(東北・北海道選抜)		

高等学校体育大会等の結果

◎第54回福島県高等学校体育大会 県大会

■陸上競技

【男子】

三段跳	佐藤 義剛(3M)	第6位
	(東北大会出場)	

■バスケットボール

男子団体		1回戦敗退
------	-------	-------

■バレーボール

男子		3回戦敗退
----	-------	-------

■ソフトテニス

男子団体		1回戦敗退
------	-------	-------

■テニス

【男子】

団体戦		ベスト8
シングルス	小堀 健生(3C)	2回戦敗退
"	武田 章宏(2K)	1回戦敗退
ダブルス	(小堀 健生(3C) 菅野 晃司(2I))	2回戦敗退
"	(片岡 智(3E) 武田 章宏(2K))	2回戦敗退

【女子】

団体戦		2回戦敗退
-----	-------	-------

■卓球

【男子】

学校対抗		第3位
シングルス	吉田 圭佑(3C)	ベスト32
"	石井 侑希(2K)	ベスト32
ダブルス	(永井 一喜(2M) 渡辺 大樹(2K))	ベスト8

【女子】

学校対抗		ベスト8
シングルス	小野 緑(2K)	第3位
	(全国大会出場)	
"	猪狩 美咲(2C)	ベスト32
"	安島 真理(2I)	ベスト32
"	小野 仁美(1I)	ベスト32
ダブルス	(小野 緑(2K) 安島 真理(2I))	第6位
	(東北大会出場)	

■バドミントン

【男子】

学校対抗		2回戦敗退
シングルス	伊藤 勲信(3K)	3回戦敗退
"	志賀 匠(1M)	2回戦敗退
ダブルス	(伊藤 勲信(3K) 佐藤 一貴(2E))	2回戦敗退
"	(星野 佑一(2M) 志賀 匠(1M))	2回戦敗退

【女子】

学校対抗		2回戦敗退
■空手道		
男子団体組手		予選リーグ3位

男子個人組手	角田 幸司(2C)	1回戦敗退
"	会田 崇人(1M)	1回戦敗退
"	洲崎 翔太(1I)	1回戦敗退
男子個人型	角田 幸司(2C)	2回戦敗退
"	会田 崇人(1M)	1回戦敗退
"	洲崎 翔太(1I)	1回戦敗退

■水泳

【男子】

50m自由形	吉田 周平(1M)	予選敗退
"	坂本 龍一(3M)	予選敗退
100m自由形	坂本 龍一(3M)	予選敗退
200m自由形	西間木悠輔(2M)	予選敗退
400m自由形	西間木悠輔(2M)	予選敗退
200m平泳ぎ	矢羽々寛和(1M)	予選敗退
100m背泳ぎ	若松 大介(2E)	予選敗退
"	鈴木 達也(3I)	予選敗退
200m背泳ぎ	若松 大介(2E)	予選敗退
"	鈴木 達也(3I)	予選敗退
200mバタフライ	星 丈弘(2K)	予選敗退
200m個人メドレー	山口 修平(1K)	予選敗退
400m個人メドレー	山口 修平(1K)	予選敗退
"	永久保祐樹(3I)	予選敗退
400mリレー		予選敗退
800mリレー		予選敗退
400mメドレーリレー		予選敗退

【女子】

200m自由形	猪狩あゆみ(2M)	予選敗退
100m平泳ぎ	高橋 奈々(2I)	予選敗退
200m平泳ぎ	高橋 奈々(2I)	予選敗退
100mバタフライ	猪狩あゆみ(2M)	予選敗退

◎第61回東北学生陸上競技選手権大会

男子5000m	山崎 翔太(5K)	第12位
男子10000m	山崎 翔太(5K)	第13位

◎第63回東北高等学校陸上競技大会

【男子】

男子三段跳	佐藤 義剛(3M)	第15位
-------	-----------	------

◎第62回東北高等学校卓球選手権大会

【女子】

シングルス	小野 緑(2K)	1回戦敗退
ダブルス	(小野 緑(2K) 安島 真理(2I))	2回戦敗退

◎第77回全国高等学校卓球選手権大会

【女子】

シングルス	小野 緑(2K)	1回戦敗退
-------	----------	-------



◎第61回福島県総合体育大会 県大会



■陸上競技

【男子】
4×400mR 安島・伊藤・星・稲場 第5位
【女子】
三段跳 河原田あさ美 (5 I) 第8位

■バレーボール

男子 1回戦敗退

■テニス

【男子Ⅰ部】

シングルス 武田 章宏 (2 K) ベスト16
" 片岡 智 (3 E) 2回戦敗退
ダブルス (武田 章宏 (2 K)
菅野 晃司 (2 I) ベスト16
" (小堺 健生 (3 C)
片岡 智 (3 E) 2回戦敗退

【男子Ⅱ部】

シングルス 矢吹 裕弥 (1 I) 1回戦敗退
ダブルス (佐藤 正隆 (1 C)
小竹森可廉 (1 I) 1回戦敗退
" (小林 将大 (1 C)
片岡 智 (3 E) 1回戦敗退

【女子Ⅰ部】

シングルス 塚本 仁美 (2 I) 2回戦敗退
ダブルス (横田 愛梨 (3 C)
塚本 仁美 (2 I) 1回戦敗退

【女子Ⅱ部】

シングルス 吉田 美香 (1 C) 1回戦敗退
" 岩崎 真歩 (1 C) 1回戦敗退
ダブルス (吉田 美香 (1 C)
岩崎 真歩 (1 C) 1回戦敗退



■卓球

【少年男子】

団体 第3位
シングルス 吉田 圭佑 (3 C) ベスト32
" 永井 一喜 (2 M) ベスト32
" 内田 権一 (2 C) ベスト32
" 渡辺 大樹 (2 K) ベスト32
" 佐藤 勇人 (1 K) ベスト32

【少年女子】

団体 準優勝
シングルス 小野 緑 (2 K) ベスト32
" 猪狩 美咲 (2 C) ベスト32
" 小野 仁美 (1 I) ベスト32
" 安島 真理 (2 I) ベスト32
" 安島 恵理 (2 I) ベスト32

■バドミントン



【男子】

シングルス 伊藤 勲信 (3 K) 2回戦敗退
" 佐藤 一貴 (2 E) 2回戦敗退
ダブルス (伊藤 勲信 (3 K)
湯本高校選手 2回戦敗退
" (星野 佑一 (2 M)
佐藤 一貴 (2 M) 2回戦敗退
" (志賀 匠 (1 M)
好間高校選手 2回戦敗退

■水泳

【一般男子】

50m自由形 浅田紳太郎 (4 M) 第1位
" 加地 孝之 (4 K) 第3位
100m自由形 蛭田 昌孝 (4 M) 第1位
" 加地 孝之 (4 K) 第2位
" 二瓶 元気 (専2) 第3位
50m平泳ぎ 浅田紳太郎 (4 M) 第1位
" 植田 耕平 (4 K) 第2位
100m平泳ぎ 浅田紳太郎 (4 M) 第1位
" 植田 耕平 (4 K) 第2位
50m背泳ぎ 浅田紳太郎 (4 M) 第1位
" 二瓶 元気 (専2) 第2位
" 五十嵐大輝 (4 E) 第3位
100m背泳ぎ 蛭田 昌孝 (4 M) 第1位
50mバタフライ 蛭田 昌孝 (4 M) 第1位
" 浅田紳太郎 (4 M) 第2位
" 植田 耕平 (4 K) 第3位
100mバタフライ 大金 裕哉 (4 M) 第1位
200m個人メドレー 五十嵐大輝 (4 E) 第1位

【一般女子】

50m背泳ぎ 大原 早樹 (5 K) 第1位

◎全日本卓球選手権大会 福島県予選会

【女子】ジュニア

シングルス 安島 真理 (2 I) 第3位
(全国大会出場)

【女子】一般

シングルス 西山 綾香 (5 K) 第3位
(全国大会出場)

各種大会等の結果



■吹奏楽部

第46回福島県吹奏楽コンクール
金賞(県代表)

第50回東北吹奏楽コンクール
銀賞(第2位)

■将棋部

第44回全国高校将棋選手権大会 福島県大会
団体戦 第4位

個人戦 博多 大樹 (2 E) ベスト16

" 渡辺 亮 (2 E) 予選敗退

第20回全国高等学校将棋竜王戦 福島県大会
個人戦 博多 大樹 (2 E) 1回戦敗退

" 長谷川 涼 (2 E) 1回戦敗退

" 渡辺 亮 (2 E) 1回戦敗退

" 大竹 剛史 (2 K) 2回戦敗退

" 関根 大樹 (2 K) 2回戦敗退

" 永井 駿 (2 I) 2回戦敗退

" 猪狩 直也 (1 C) ベスト16

個人戦 浦住 僚 (1 C) 1回戦敗退
" 芳賀 正幸 (1 C) 2回戦敗退

第15回全国高等学校将棋大会
団体 1回戦敗退

個人戦 國分 啓徳 (5 E) 予選敗退

" 大竹 剛史 (2 K) 予選敗退

" 関根 大樹 (2 K) 予選敗退

" 永井 駿 (2 I) 予選敗退

■全日本学生ソーラーカー&
F Cカーチャンピオンシップ

JISFC・WSR 総合15位
JISFCクラス 第3位

■分子生物学愛好会
第20回知能ロボットコンテスト2008

チャレンジコース
・堀越くまさんペンタくんA 準優勝

ロボット名「ボチ」 (メカトロで遊ぶ会賞)

舟木 理恵 (2 C)
志賀 諭 (2 C)

・堀越くまさんペンタくんB 一次予選敗退

ロボット名「たま」 平澤 英里 (2 C)

小野 弘未 (2 C)

■写真部
・いわき地区高等学校写真連盟写真撮影会 参加

日立方面 (国営ひたち海浜公園・日立かみ

ね公園) 諏訪神社桜撮影会 実施

・フラワーセンター撮影会 実施

・大道芸撮影会 実施

・阿弥陀堂撮影会 実施

・東北地区体育大会撮影 実施

・日光東照宮とその周辺の滝撮影会 実施

■茶華道部
いわき学校茶道連盟

第25回合同発表会 参加

■サイクリング部
・春季サイクルツーリング 実施

・裏磐梯 (白布峠) クラブルン 実施

・夏季サイクルツーリング 実施

・第52回全国サイクリング大会in福島 参加

・第44回東北サイクリングフェスティバルin福島 参加

おまえら最高だぜ！



撮影：機械工学科 4年 柳沼元春（写真部）

水泳部指導教員 松本 匡 以

8月24日(日)に北海道立野幌総合運動公園温水プールで開催された第43回全国高等専門学校体育大会ならびに第14回全国高等専門学校水泳競技大会で、本校水泳部は総合優勝を勝ち取ることができました。現地で応援頂いた加藤事務部長を始めとして、ご声援・ご支援頂いた皆様方に改めて御礼申し上げます。

この大会は、男子13種目・女子4種目の予選と決勝(+女子リレー1種目)を1日(約7時間)で行うもので、種目間が短く、私が見る限りでは世界一過酷な競泳の大会だと思います。本校の選手も泳ぎ終って表彰されて、そのまま次の種目のスタート台へ向かうようなこともありました。

ただでさえ速い進行がさらに加速されてレースが進み、最終種目の男子400mリレー開始前の点数は、神戸市立高専73点、本校66点。リレーの結果は…、本校が2位で14点、神戸が6位で6点。1点差での劇的な逆転勝利となりました。過酷な試合運びの中で誰一人順位を落としても優勝できなかったはずですから、力泳した選手、それを細かな指示なしでも自律的に支援できたマネージャーや補欠の者達、盆休み期間中もほぼ無休で指導をして頂いた金澤弘孝コーチ等々、チーム全体の総合力の勝利だと確信しています。

全員の活躍が今も鮮明に記憶に残っていますが、中でも特に印象的だったのは、建設環境工

学科5年 大原早樹の女子50m背泳ぎの大会記録を含む5連覇と、本校入学後に水泳を始めた機械工学科4年 浅田紳太郎が男子100m・200m平泳ぎで全国の頂点を極めたことでしょうか。

今回は、平成17年度に続いての2度目の優勝(18、19年度は2位に甘んじました)でしたので、前回の勝利がまぐれや偶然ではないことを示せたと思います。来年度は連覇を目指し、本物の強さを備えたチームにしたいと考えています。

競泳の大会では、優勝したチームがプールに落ちる(落とされる)慣習があるようですが、タイトルはその直前に金澤コーチが発した言葉です。私もプールの中で、しみじみその通りだと思いました。



吹奏楽部指導教員 鴨 下 祐 也

吹奏楽部の活動で、学内のみなさんに最も知られている場面は、入学式、卒業式での生演奏でしょう。学生の皆さん、初々しい入学式するとき、壇の横で演奏していたバンドが、私たち吹奏楽部です。

部員の立場から、最も盛り上がる活動といえば、夏休み前後に行われる吹奏楽コンクールと、11月の定期演奏会でしょう。吹奏楽コンクールは課題曲と自由曲の2曲、わずか12分の間にバンドとしての力量が試されます。このコンクールで、福島高専吹奏楽部は30年連続して、東北大会に出場しています。もう一方の定期演奏会も今年で30回を迎え、この節目の年に会場も新装されたアリオスとなりました。毎年多くの方々に支えられ、たくさんの方々に観覧頂いている演奏会です。約二時間のステージを楽しんでもらえるよう、部員たちは演奏の練習から、構成、演出、パンフレットまで念入りに準備をして本

番に臨んでいます。

顧問の立場から最も重要なことと言えば、うやうやしく頂いた金賞カップを翌年ひっそりと大会本部に返しに行くこと…ではなくて、コンクールや演奏会の運営、部員の活動に事故やけが無く、のびのびと楽しく活動できる環境を整え、陰ながら応援することではないか、と思っています。



高専ロボットコンテスト2008 東北地区大会

指導教員 物質工学科 天野 仁 司

10月19日(日)に仙台電波高専体育館において高専ロボットコンテスト東北地区大会が行われ、本校から2チーム(指導教員:機械工学科 鈴木茂和、物質工学科 天野仁司)が参加しました。今年の課題は「生命大進化」で、多足歩行ロボットがハードルを越え、二足歩行ロボットに進化してゴールするもので、初めての足を使った移動手段によるレースです。

本校では、本来の「歩行」というテーマを、足の動きや重心の移動などの機構で機械的及び電氣的に実現することを目標とし、真正面から取り組みました。Aチームはアクシデントからのリトライに手間取り、一回戦で敗退しましたが「シカ」の多足歩行ロボットが評価され、特別賞(東京エレクトロン FE)を受賞しました。Bチームは「フタバズキリュウ」を模した、重心移動とエアシリンダーを使ったダイナミックな動きの巨大な多足歩行ロボットと、「白虎隊士」を模した二足歩行マシンを2個のモーターだけで軽やかに疾走させるという、機械と電気制御の融合した人間味あるロボットを製作しました。しかし、本戦では不可抗力ともいえる不注意と、重大な外部要因のため、動作させることができず、二回戦で敗退しました。なお、この二足歩行マシンは、アイデア披露とエキシビションでは、人間的な動きの二足歩行を披露し、会場から「おー」という感嘆の声を得ることができました。

今回学生たちは、勝つためのマシンではなく、技術とアイデアを重視して、課題の達成に妥協しないマシンを製作しました。そのため練習時間が足りず、スムーズな操縦はできませんでしたが、大会までにマシンを完成させたことは事実です。ところが、Bチームにおいては、本戦でスタートできないという事態になりました。学生の名誉のために代弁します。これは学生の責任ではありません。彼ら(彼女ら)はテストランまで問題なく動いていたマシンを最後まで諦めずに動かそうとしました。しかし、それ以前の別の要因で動かすことができない状態であったのです。それまでの真摯な取り組みと努力を見てきた私たち指導教員としては、遺憾と言う以外にありません。



Bチームの二足マシン



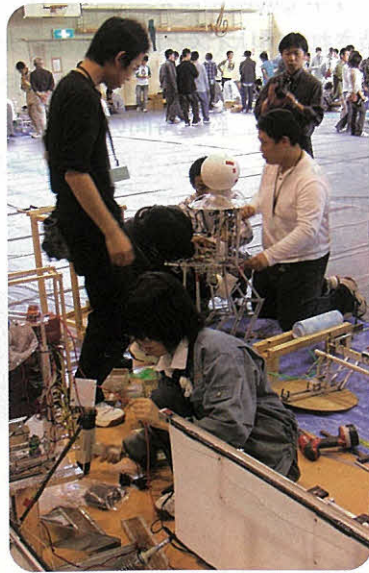
Aチームの多足マシン



Bチームの多足マシン



Aチームの二足マシン



ピットの様子

と ぴ つ く す

5月

京都大学エネルギー理工学研究所と学術連携協定を締結 第二回京大エネルギー理工学研究所・福島高専連携講演会も開催

「京都大学エネルギー理工学研究所と福島工業高等専門学校との学術交流に関する協定調印式」を平成20年5月19日(月)にいわき産業創造館(LATOV)で執り行いました。

化石燃料利用等で地球温暖化が問題視される中、日本が直面する環境問題やエネルギー問題の解決策として、原子力利用は極めて重要になってきています。しかしながら、団塊の世代の大量停年退職問題などで原子力関連の知識人材が枯渇しつつあり、原子力人材育成は日本の喫緊の課題となっています。

そのような背景から、昨年度より経済産業省と文部科学省で「原子力人材育成プログラム」が開始され、本校もこのプログラムに応募し採択されました。これまでの京都大学エネルギー理工学研究所との教員同士の協力関係が実を結び、この度、エネルギーおよび環境に関する学術交流において連携協力の合意に至りました。協定内容は①研究協力、②研究設備の相互利用、③人材育成、④シンポジウムの開催、⑤情報交換などが盛り込まれ、今後は福島高専から京都大学へのインターンシップ学生の派遣、教員の研究協力、合同シンポジウムの開催等で、真に実のあるものになるよう連携活動を深めていく考えです。

調印式後にはエネルギーをテーマとした福島高専地域フォーラムの一貫として「第二回京都大学エネルギー理工学研究所・福島工業高等専門学校連携講演会」を開催しました。講師には京都大学エネルギー理工学研究所木村晃彦教授、八戸工業大学阿部勝憲教授、東京電力(株)福島第二原子力発電所永名修平副所長、福島高専佐東信司副校長の4名を迎え、記念講演会を行いました。当日は一般市民・本校教職員・学生など65名が聴講し、熱気ある質疑応答が行われました。



右:京都大学エネルギー理工学研究所 尾形幸生所長
左:福島高専奈良宏一校長

6月

第20回知能ロボットコンテスト2008チャレンジコースにおいて、福島高専・分子生物学愛好会のチームが準優勝

去る6月21日(土)、22日(日)に仙台市科学館で行われた第20回知能ロボットコンテスト2008(主催:ロボット競技実行委員会・メカトロで遊ぶ会・(社)日本ロボット学会)において、本校の分子生物学愛好会のチーム「堀越くまさんペンタくんA」、マシン名「ボチ」(物質工学科2年 舟木理恵、志賀諭、指導:物質工学科教員 天野仁司)が、チャレンジコース(参加登録81チーム)において「準優勝」し、併せて「メカトロで遊ぶ会賞」を受賞した。

決勝では、惜しくもパーフェクトを逃したが、スムーズかつ正確なボール取り込みと選別、意外なゴール方法などを披露し、高い評価を得ることができた。



8月

福島高専が小野町と連携協力に関する協定を締結



左:奈良宏一校長、右:戸良三町長

福島工業高等専門学校(奈良宏一校長)と小野町(福島県田村郡、戸良三町長)は去る8月26日(火)、連携協定に係る調印式を小野町役場にて行った。福島高専が自治体と連携協定を結ぶのはいわき市

に次いで2例目、小野町が高等教育機関と連携協定を結ぶのは初めてである。

本協定では、福島高専と小野町が教育、産業、福祉、環境等の分野で連携・協力し、相互の振興発展を図ることを目的としている。今後は、両者が参画する連絡調整会議を設置して、小野町の学校教育や生涯学習の推進、地域産業の振興、地域福祉の充実・向上、循環型社会の形成等の実現に向けた事業を行っていく予定である。

協定締結にあたり、奈良校長からは「本校が地域に役立つ存在感のある高専として、これからも地域に貢献していきたい。」戸良町長からは「福島高専の英知をもって、まちづくりへの企画、立案、実施に関してバックアップをいただくための仕組みを構築し、小野町の更なる発展のため尽力いただくことが最大の願いであります。」とそれぞれの挨拶があった。

「地域にとって魅力あふれる高専」を目指す福島高専では、今回の協定によって研究シーズ等が地域に還元されることで産学官連携がさらに進展し、豊かで活力あふれる小野町の実現に向けて貢献できるものと期待されている。



電気工学科

電気工学科 助教
豊島 晋



7年前に茨城高専を卒業し、教員として再び高専に戻ってくることができ大変うれしく思います。専門は有機エレクトロニクスであり、大学では主に有機半導体を用いた太陽電池の開発を行ってきました。講義などでは電子材料などに少しでも興味を持ってもらえるように励んで行きたいと思います。また、学生にとって高専で学んだ5年間が掛替ええないものになるように勤めて行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

コミュニケーション情報学科

コミュニケーション情報学科 准教授
平塚 力



4月より着任しました平塚力と申します。私は組織改革、具体的にはフィールドワークを通じて、当事者にも意識されていない組織の自己変革過程を研究しております。出身は秋田県で、3月までは仙台在住でした。いわき市は同じ東北文化圏でもあることから、暮らしやすいと感じております。福島高専に着任後は「学生が深く、主体的に考える」をモットーにしております。以後、よろしくお願いいたします。

コミュニケーション情報学科 助教
高橋 雅也



生まれは神奈川県かながわの秦野で、通学のために湘南にも住んでおりました。いわきは「東北の湘南」と聞いて、親近感を抱いております。専門は社会学で、地域の文化や技術を介した社会形成の可能性を論じてきました。学生たちには、ビジネスマンあるいはエンジニアとして、社会と切り結ぶタフな専門性を身に付けて欲しいと思います。その一助となれるよう、未熟ながら力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

コミュニケーション情報学科 助教
米本 清



本年4月よりコミュニケーション情報学科の助教としてお世話になっております米本清です。これまで、都市・公共経済学に関わる数理モデルを研究してきました。大学や研究所と比べて沢山のにぎやかな学生に毎日接し、実践的な教育をすべき立場となり、責任の重さと同時にやり甲斐を感じています。「いわき」「福島高専」の気風を理解し慣れていくと共に、できる限りの貢献をさせて頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務課

総務課長
岡野 勉



みなさんこんにちは。この4月に筑波大学より赴任して参りました。生まれは高知県土佐市で、四万十川近くの宇佐町です。小学生の時に、父親の仕事の関係で茨城県つくば市に移り住みました。「いわき」は、自然環境抜群で、心体にやさしい空気も気に入っています。高専総務課長としての守備範囲は広いのですが、多くの教職員の皆様を支えられており感謝しております。年々種々、厳さを増し、高専を取り巻く環境は決して穏やかではありませんが、チームプレーでこの現状に立ち向かって行きたいと思えます。微力ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

総務課員
松本 真一



4月より総務課施設管理係に採用になりました松本真一と申します。出身は福島県いわき市平（草野）です。4月に採用され、分からないことばかりで皆様には色々とお迷惑をお掛けしていると思いますが、学生の安全で快適な環境を常に追い求める技術職員に一日でも早くなれるように精一杯頑張っていく所存でありますので、どうぞ宜しくお願い致します。

員紹介

総務課

総務課員
菅原 祐子



4月1日付けで、総務課総務係に採用になりました菅原祐子です。今年3月に大学を卒業するまで仙台市に住んでいました。直接学生の皆さんとは接する機会は少ないかもしれませんが、陰ながら学校生活のサポートが出来るよう努めて参りたいです。不慣れなこともたくさんあり、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

学生課

学生課員
戸田 拓樹



こんにちは、戸田拓樹です。私のいる学生課は、学生の皆さんと接する機会が多い場所です。

私は、ここで働き始める少し前まで専門学校で学生をしていたため、経験が乏しく頼りないことが多々ありますが、年齢的にも学生に近いので、そのことを利点に学生に近い立場で物事を考えることができるのではないかと考えています。今後、ご迷惑をかけるかもしれませんが、精一杯頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

技術部

技術部 第一技術班
柳 沼 仁 志



3月より技術部第一技術班に採用されました柳沼仁志です。これまでの約6年間、民間企業でモノづくりに携わってきました。その経験を実習や実験、研究支援等に生かしていきたいと思っています。また課外活動にも積極的に参加し、より多くの学生と共に成長していけたらと思っています。皆様には、ご迷惑をおかけしますが、精一杯頑張っていきますのでどうぞ宜しくお願いします。

技術部 第二技術班
杉 浦 珠 実



3年前の3月にこの学校の機械工学科を卒業しました。卒業後、企業に就職して神奈川に住んでいました。がなぜか福島に戻ってきたという思いがあり、機会があって福島高専に技術職員という形で戻ってくることとなりました。主に電気・機械の実験・実習を担当します。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、よろしくお願いいたします。

技術部 第三技術班
佐 藤 潤



今年4月より、技術部第三技術班に採用されました佐藤潤です。主に物質工学科の専門実験を担当しています。

出身は、今年色々話題がたえない(地震、世界遺産etc)岩手県一関市です。一関高専に7年ほど通い、高専という高校とも大学ともどこか違うそんな雰囲気が好きで、高専に舞い戻ってきました。

実験などを通じて化学の面白さを伝えられるような技術職員を目指して努力していきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

技術部 第三技術班
林 真



今年4月1日付けで技術部第三技術班に採用されました、林真と申します。物質工学科の実験を担当しています。出身地は福島市で、この4月からいわき市民になりました。採用された当初、高校出身の自分にはとても想像できなかった高度な教育内容に衝撃を受けました。現在、実験・実習で学生たちに接するたびに、この場に相応しい知識と技術、そして人間性を磨く必要性を感じております。まだ全てにおいて経験不足ですが、これから多くのことを吸収し成長して参りますので、よろしくお願いいたします。